

# 経営比較分析表

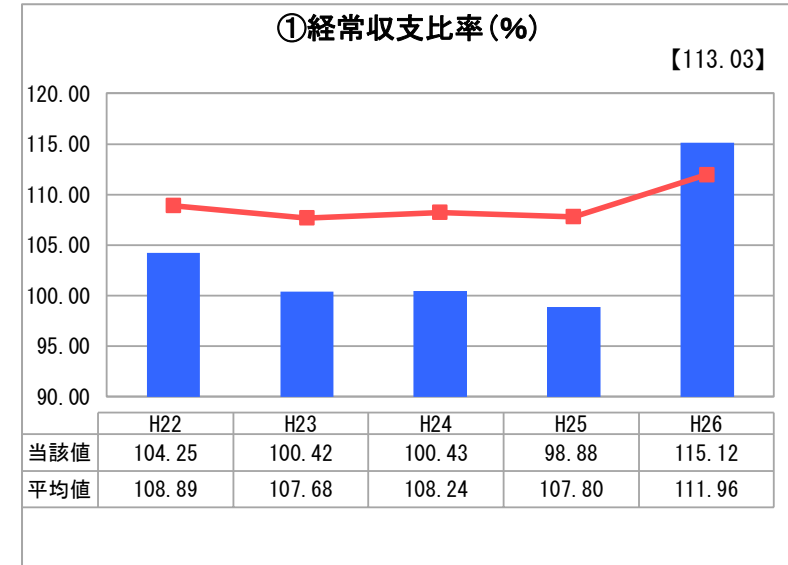
埼玉県 行田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	64.16	92.89	2,721

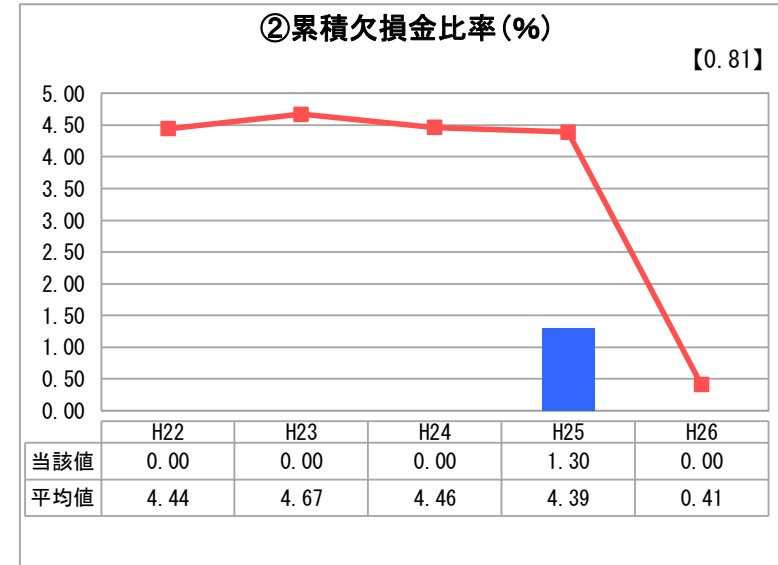
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
84,363	67.49	1,250.01
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
78,052	61.67	1,265.64

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成26年度全国平均

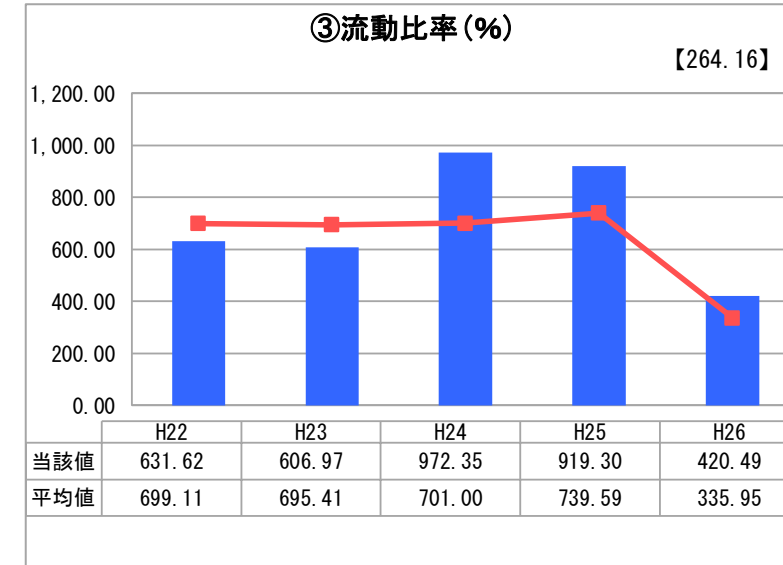
## 1. 経営の健全性・効率性



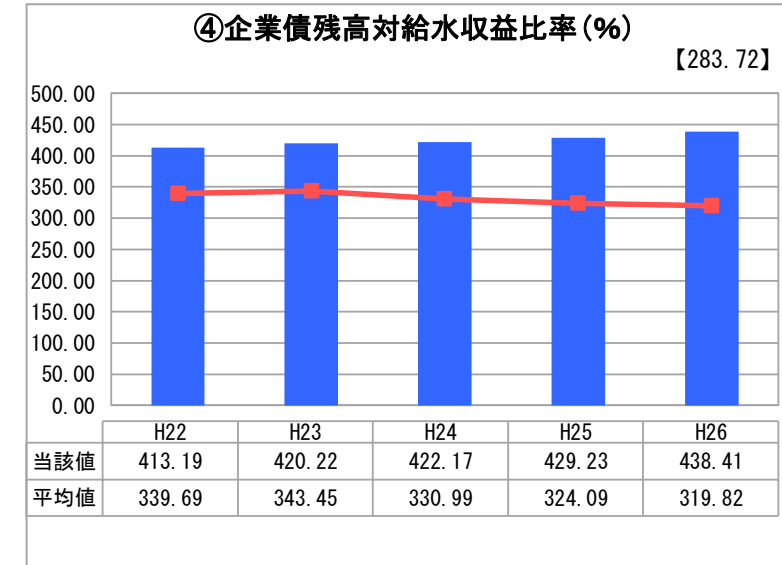
「経常損益」



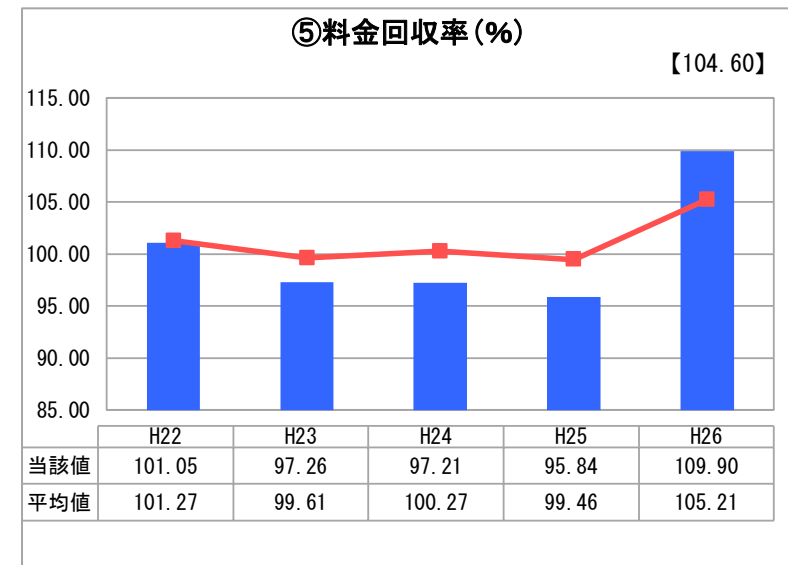
「累積欠損」



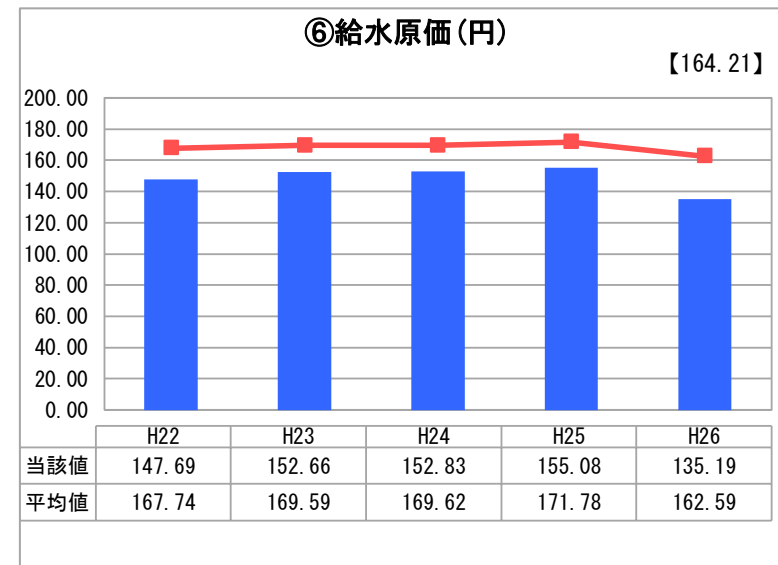
「支払能力」



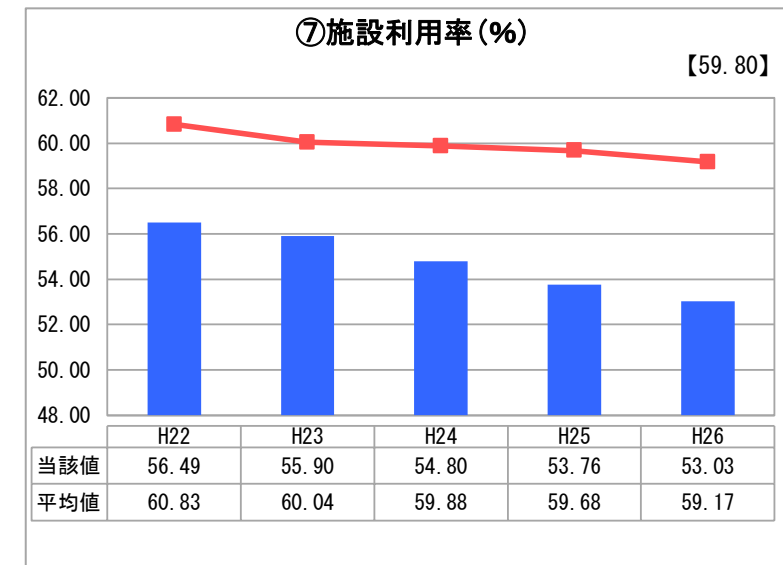
「債務残高」



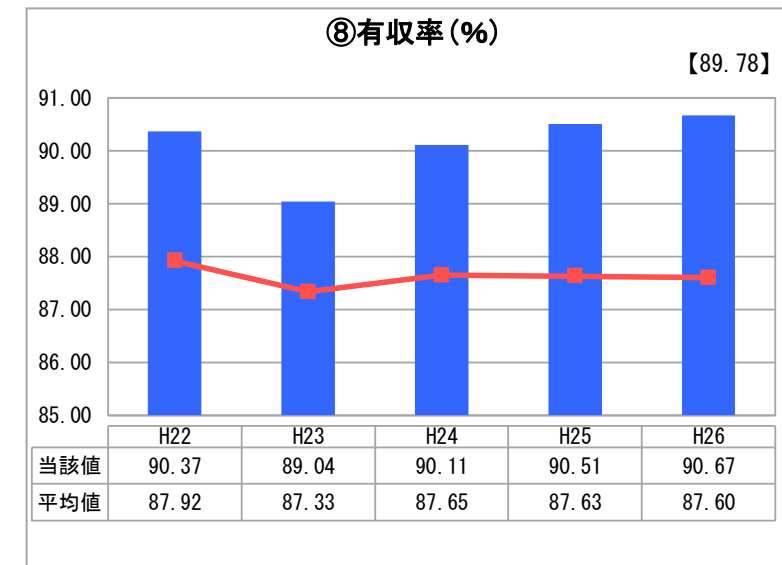
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

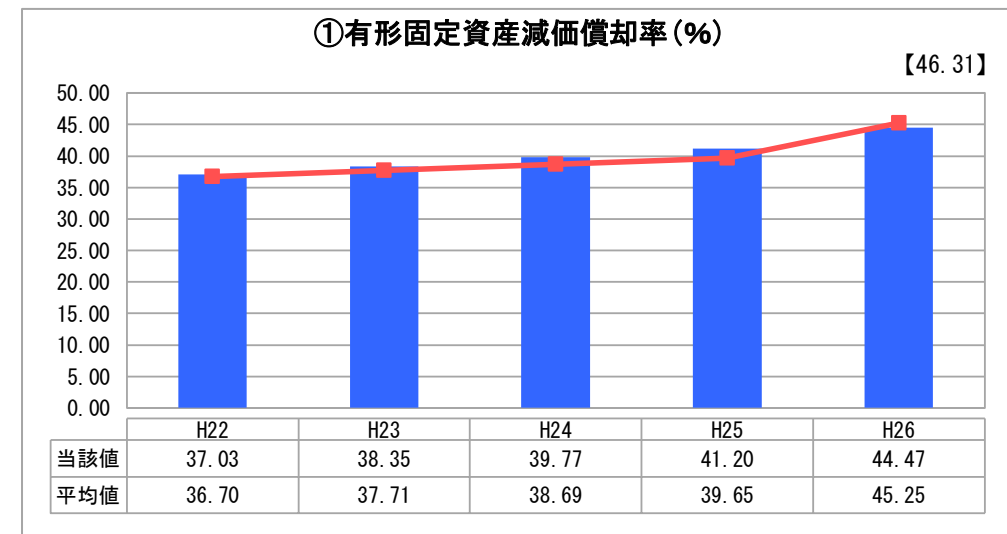


「施設の効率性」

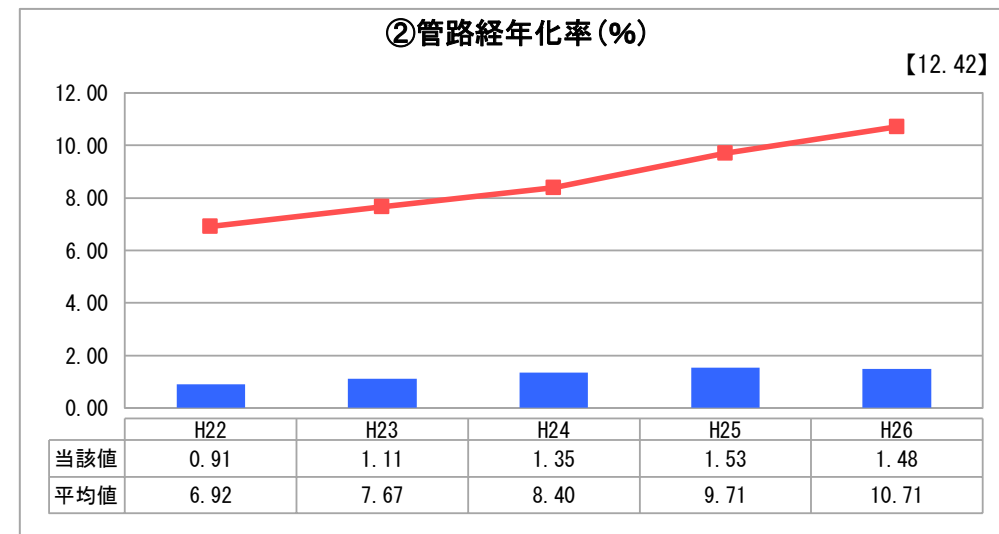


「供給した配水量の効率性」

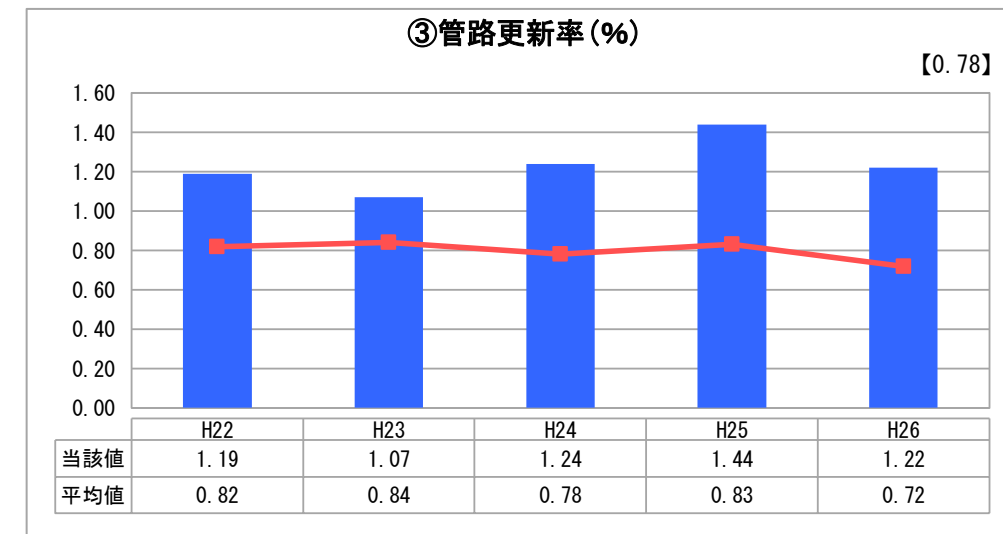
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率・⑤料金回収率・⑥給水原価  
 経常収支比率は、H25に赤字となり100%を割った。しかし、H26は新会計基準の経営となり長期前受金戻入の影響により黒字となっている。また、料金回収率もH26は増加した。4年ぶりの100%以上となったが、長期前受金戻入の影響で給水原価が減額したことが影響している。

②累積欠損金比率  
 H25は給水収益の減少や費用が嵩み欠損金が発生した。現在累積欠損金はない。

③流動比率  
 流動比率は100%以上であるので負債を賅っている。但し、新会計基準により流動負債の増加により流動比率は減少している。

④企業債残高対給水収益比率  
 企業債残高は類似団体に比べても高値である。今後は借入金を抑え、比率を減少していく必要はある。

⑦人口減少等に伴い施設規模が見合わなくなっている。今後、施設区域や施設規模の見直しをしていくことが必要とされる。

⑧有収率  
 有収率は類似団体に比べかなり良い。今後も有収率の向上を図る。

### 2. 老朽化の状況について

②管路経年率・③管路更新率  
 管路経年率が高いほど、法定耐用年数を経過した管が多いが、類似団体と比べ大分低い数値となっている。また、管路更新率も類似団体よりも更新を行っていることがわかる。以上のことから、管路更新の現状は良いと考えられる。

①有形固定資産減価償却率・②管路経年率  
 H26の減価償却率が約44%となっているが、管路経年率を見ると、比較的低値である。今後は老朽管の更新から、浄・配水場の長寿命化や施設規模の見直しを含めた老朽化更新事業の取組みが必要である。

### 全体総括

今後、施設・設備の大量更新時期を迎えることや、人口減少等に伴う料金収入の減少などの課題に直面することになる。このような状況であるため、早急に経営戦略を策定し、事業規模の縮小や料金の見直し等を検討していく必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。